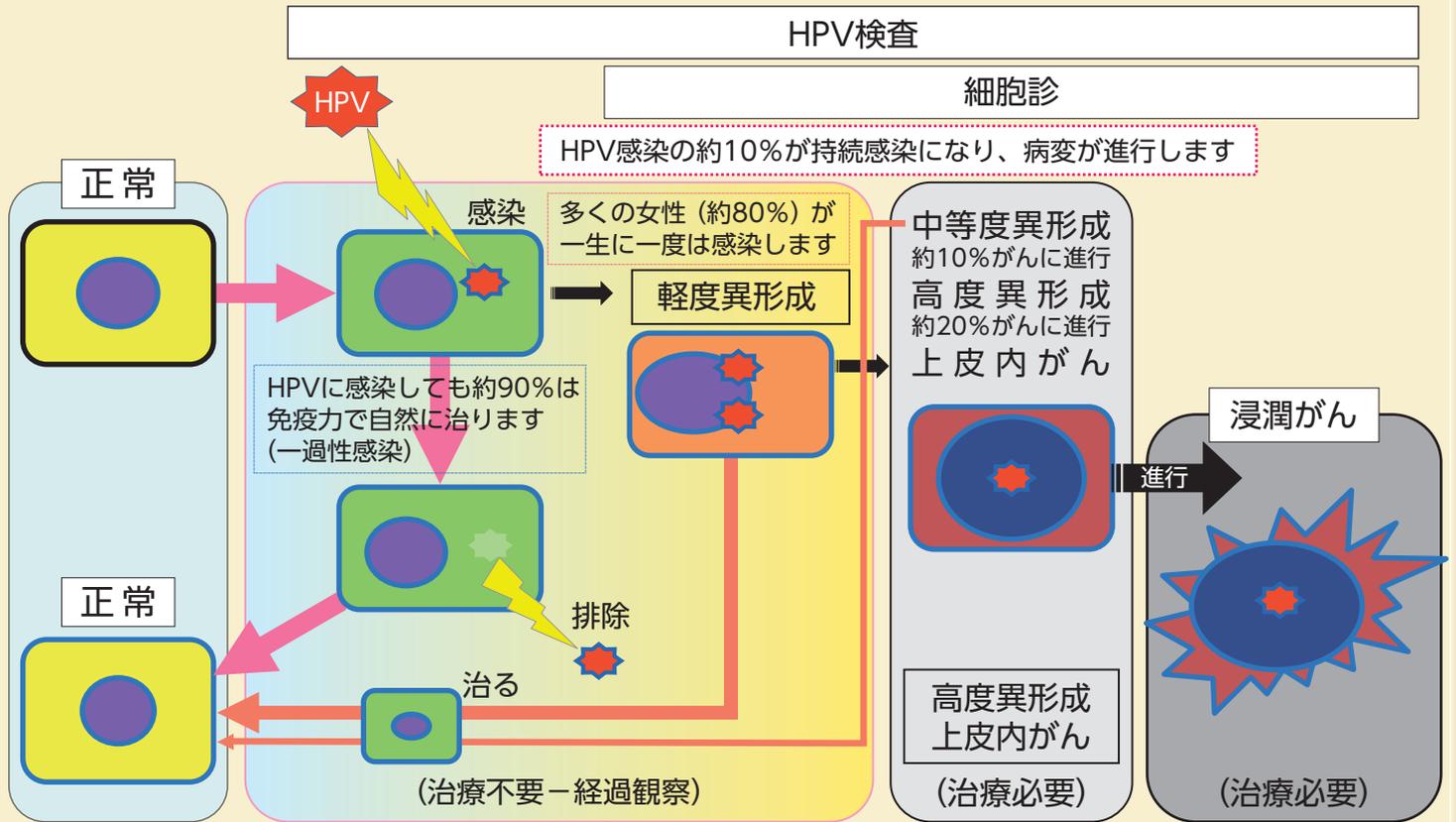


# HPV感染と子宮頸がんに至るまでの病理学的変化



「細胞診結果」  
陰性 (NILM) ⇒ ASC-US (軽度病変疑い) ⇒ 軽度病変 (LSIL) ⇒ 高度病変 (HSIL) ⇒ がん (SCC)

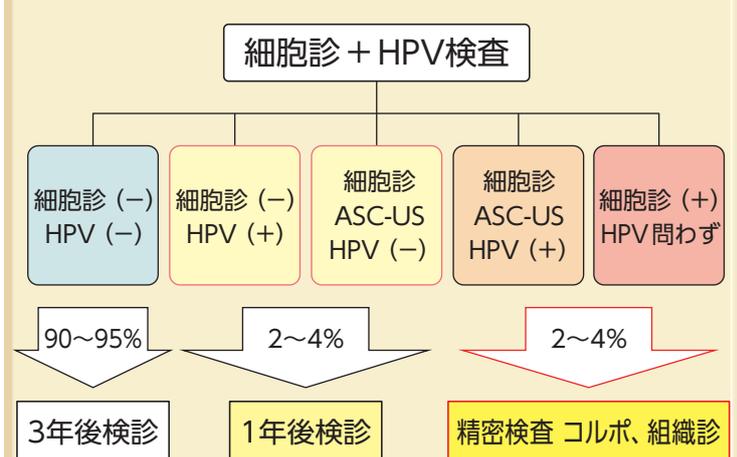
## HPVと子宮頸がん

- HPVテストが陽性とは、子宮頸がんの原因となるハイリスクHPV13種類 (16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,68型) のいずれかの感染があることを示している。
- ほとんどの成人女性 (約80%) が一度はHPVに感染し、約90%は自然に消える。
- HPVは皮膚・粘膜の接触で伝搬する。
- HPVは健康な女性にも存在しており、細胞診で異常がなければ治療の必要がない。
- 免疫や喫煙などの要因が加わり、高度異形成やがんに行進する。
- 子宮頸がんはありふれたウイルス (HPV) による稀な合併症である。

### 子宮頸がん検診 (細胞診・HPV併用) の結果

異常なし (NILM)		軽度病変疑い (ASC-US)		軽度病変 (LSIL) 高度病変疑い (ASC-H) 高度病変 (HSIL) 扁平上皮癌 (SCC) 腺癌疑い (AGC) 腺癌 (Adenocarcinoma) その他の異常
HPV 陰性	HPV 陽性	HPV 陰性	HPV 陽性	
3年後検診	1年後検診	精密検査 (コルポ下生検)		

### 細胞診・HPVテスト併用検診の例



詳細は、研修ノートNo.90「婦人科外来診療のための細胞診・組織診のすべて」および「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来篇」をご参照下さい。  
公益社団法人日本産婦人科医会 がん対策委員会